

## 森の国・森林環境管理高度技術者養成拠点

実施機関：愛媛大学（総括責任者：柳澤 康信）

実施期間：平成 22～26 年度

### プロジェクトの概要

森林環境管理の課題解決を図り、森林保全と林業の持続的安定的発展を目指し、森林環境管理特別コースを愛媛大学大学院農学研究科に創設する。本コースは森林環境管理高度技術者養成のための専門職大学院的性格を持ち、応用・実践面を重視したカリキュラムを愛媛県林業研究センターの施設を活用して養成する。同時に、短期集中型の社会人リカレントコースとして、社会人のニーズにも合わせた 5 つの系列のメニューで構成し、修了生の活躍により地域再生に取り組む。

#### (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

本プロジェクトは、森林保全と林業の持続的発展を担う技術者を養成する取組である。森林環境管理特別コース（修士課程コース）と社会人森林環境管理リカレントコース（社会人リカレントコース）を組み合わせた人材養成は、学と実務の両面が連携した人材育成手法のひとつとして評価できる。また、養成修了者数は所期の目標を達成していること、自治体や森林組合等との連携が良好に行われ、同窓会機能が有効に働いていることとともに、修士課程コースが特色ある大学院修士課程として継続することは評価できる。今後は、取組対象を森や森林資源の活用まで広げて、産業化、事業化に貢献しうる人材の養成を目指すことを期待する。

・**目標達成度**：目標 15 名に対して 16 名の修士課程コース修了生を輩出した。また、社会人リカレントコースでは、総合コースの目標 20 名を超える 26 名に系列コースの延べ 54 名の修了者を合わせると目標 80 名を達成していることから、地域および林業の現状を鑑みると、所期の目標は達成していると評価できる。

・**人材養成手法の妥当性**：修士課程コースと社会人リカレントコースを並列的に置くとともに、修士課程コースにおいて修士論文に代えて長期インターンシップを置き、現場での課題研究を配置する手法や、ラーニングポートフォリオを基礎とする学生面談を行っていることは、実践的で効果的な人材養成手法のひとつとして評価できる。今後は、修士課程コースの入学者を減少させないためにも産業自体の活性化対策に期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：県、市町村、森林組合との連携が十分にできており、愛媛県からは県林業研究センター内にキャンパスの提供を受けるなど、自治体から様々な支援を受けたことは評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：大学院生 16 名中 12 名が四国および瀬戸内地域に就職するなど地元定着率が高いことや、社会人リカレントコース修了生が林業会社を立ち上げたことなどは、本ユニットの有効性を示すものとして評価できる。今後も、修士課程コース修了生、社会人リカレントコース修了生がともに大学の継続的な支援を得て、より密に連携、協働して森林保全と林業の持続的・継続的な発展を実現させることを期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：修士課程コースが、特色ある大学院修士課程として継続すること並びに同窓会や移動大学の実施等、持続可能な体制になっていることは評価できる。今後は、大学が森林組合や林業事業者との連携を強めながら社会人リカレント教育への支援を一層進め、森林資源の産業化、事業化に貢献しうる人材の養成を図ることを期待する。

・**中間評価の反映**：「自ら課題を発見する能力」の育成に向けて定期的な面談やプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）を取り入れるなど、中間評価での指摘に適切に対応しているものと評価できる。